

事務事業名	芦安分館資料提供事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12455									
	☐ 実施計画事業		所属課室	市立図書館		課長名	深澤 知恵美									
			所属担当	芦安分館		担当者名	望月 幸子									
基本政策	基本計画体系	V個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策		22生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	4	0	7	0	0	5
施策		35生涯学習システムの推進		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業											
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業											
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)		法令根拠	図書館法 南アルプス市立図書館条例												
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)															
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)												
	市民の暮らしに役立つ最新情報や資料を提供する。			項目(細節)金額(千円)項目(細節)金額(千円)												
	・購入雑誌の検討			消耗品費74												
	・雑誌の受入、登録、配架															
				計74												

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動

22年度活動実績雑誌購入数 11誌

23年度活動予定雑誌購入数 11誌

⇒

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称単位

ア雑誌購入数誌数

イ

ウ

② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

図書館利用者

⇒

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称単位

ア図書館利用登録者数人数

イ

ウ

③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)

雑誌から最新情報を得られることを知り、生活に役立てる

⇒

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称単位

ア雑誌の貸出数冊数

イ

ウ

④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)

図書館を身近に感じ、継続して利用する

⇒

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称単位

ア貸出資料数点数

イ

ウ

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)	
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円								
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円	78	73	75	58	58	58		
	事業費計 (A)			千円	78	73	75	58	58	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	2	6	5	5	5	5		
		人件費計 (B)	千円	9	27	20	20	20	20	0	
		(A)+(B)	千円	87	100	95	78	78	78	0	
活動指標			ア 誌数	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0		
対象指標			ア 人数	118.0	123.0	126.0	129.0	132.0	135.0		
成果指標			ア 冊数	101.0	86.0	88.0	91.0	93.0	96.0		
上位成果指標			ア 点数	1,998.0	1,861.0	1,916.0	1,973.0	2,033.0	2,094.0		

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？

芦安分館の開設と同時に情報提供を行っている。

② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？

芦安に通じる道路がよくなり、以前より短時間で芦安地区に行くことができる。幼児、小中学生が減少し、高齢化が進む。

③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？

毎月新しい雑誌を見ることができると喜ばれている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？

☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】

② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)

雑誌の廃刊により購入雑誌を変更してきた。

③ H 22年度に実施した改革改善の内容

雑誌を見直し、地域の年齢層にあった雑誌に変更する。

事務事業名	芦安分館資料提供事業	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 市民の読書活動や学習活動を支える情報を提供することは施策に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 図書館に最新情報の雑誌をおき、市民に公平に提供していくためには市が行うのが妥当である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 図書館の役割として最新情報の雑誌を市民に提供する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 図書館で雑誌を購入していることを知らない人もいるので市民に周知する。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 最新情報が載っている雑誌は、市民の近くの地域図書館においておく必要がある。 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 市民が最新情報としての雑誌を利用することができなくなる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市民の暮らしや学習活動を支援するために廃止はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 暮らしに役立つ情報提供としては少ない雑誌数であり削減の余地がない。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 受入作業、データー入力と装備等全て臨時職員1人で行っている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 図書館で雑誌を購入していることを知らない人もいるので、市民に周知する必要がある。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	・図書だけでなく、雑誌の貸し出しをしていることをより多くの市民に周知していく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①雑誌を購入し提供していることをさまざまな機会を捉え利用できることをPRする。		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②		成果優先度評価結果	⑩																					
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																								
①雑誌が利用できることを地域に周知するために、チラシを作成し各家庭に配布する。																								
②																								
③																								